

## R3地域協働研究（ステージⅠ）

### R03-I-21 「盛岡中心市街地再開発と戦略的公共交通網の構築による持続可能な地方都市モデルの形成と検証—盛岡バスセンター・monaka再開発と、LRT・公共交通のベストミックス—」

課題提案者 もりおか交通まちづくりLRTフォーラム

研究代表者 総合政策学部 宇佐美誠史

研究チーム員 平野佳則（もりおか交通まちづくりLRTフォーラム代表）ほか

#### <要旨>

本研究では、盛岡市をモデルとして、交通まちづくりの方向性および持続可能な公共交通に関する検証をテーマに研究を行った。結果、公共交通に関する意識として、「場面や状況に応じて公共交通と自家用車の使い分けをしたいと考えるが、現状としては自家用車に頼らざるを得ない環境である」ということが確認できた。ほか、先進地視察や公開フォーラム等により、コンパクトシティの在り方、公共交通の在り方について、広く啓発できた。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

本研究では、盛岡市をモデルとして、交通まちづくり、すなわち都市の再開発と両輪としての、戦略的公共交通の形と仕組みを提起すべく、「市街地再開発と連動した交通まちづくりの方向性」および「持続可能な公共交通に関する検証」について取りあげた。

市街地再開発案件が目白押しである盛岡市の現況を踏まえ、今般、住みやすさ・暮らしやすさ・楽しさ、そして快適性・機能性というまち全体のあり方と交通政策を一体のものとして考える「交通まちづくり」の考え方の浸透を図るべく、研究に取り組んだところである。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

##### 【研究テーマおよび研究方法】

◆**テーマⅠ**：市街地再開発および公共交通に関する現況調査

- 1) 市街地再開発案件と、それに伴う面的発展の方向性を確認
- 2) バス交通の定時性、接続性、利用のしやすさ等を検証
- 3) これらを踏まえた、公共交通の現状と将来に向けた方向の検証および提言

◆**テーマⅡ**：各種イベント・学習会等を通じた、交通まちづくりという観点での移動・交流機能に関する啓蒙と意見抽出

- 1) 学習会、フォーラムを通じての、交通まちづくりの考え方の啓発、現状に関する課題抽出
- 2) LRTを含めた新たな交通手段のメリット、デメリット、将来に向けた可能性の検証
- 3) 公共交通ネットワーク再構築に向けた方向性の検討

◆**テーマⅢ**：都市の再開発と連動した戦略的公共交通の構築および持続可能な地方都市モデルの創造へ向けた市民・関係者のムーブメント形成と検証

- 1) LRT導入にかかる費用対効果の検証、盛岡市の交通まちづくりといった観点での持続的繁栄の方図の描写
- 2) 地域住民・関係各主体の連携・協働の促進と、地域の持続的発展に向かう各種まちづくり活動、啓発活動の継続展開

##### 【研究経過】

◆市街地再開発案件と、それに伴う面的発展の方向性の確認  
市街地再開発案件のリストアップを終了しており、現在内容を随時アップデートしている。

◆公共交通に対する意識調査

809件のサンプルを得て、中心市街地に関連する公共交通についての市民意識を把握した。

◆岩手県立大学地域協働研究公開セッション（来場200名）

○トークセッション・・・令和3年11月13日(土)

○パネル展・・・・・・・・令和3年11月13日(土)～14日(日)

##### ・トークセッションの内容

盛岡市都市整備部長 高濱康亘氏、三田農林株式会社代表取締役 三田林太郎氏、岩手県立大学の学生・OB・OGの方々の登壇により、盛岡市中心市街地の現状と将来像に関する認識、普段考えているまちづくり、公共交通のあり方、などについてコメントいただいた。

##### ・パネル展示の内容

これまでの研究に関する中間報告として、公共交通に関する実態調査結果を掲示した、LRTに関する基礎事項解説、写真等をパネルとして展示した。

◆富山市・福井市LRT視察・・・参加者10名

・実施日・・・令和3年12月18日(土)～19日(日)

・実施内容

○森雅志氏（前富山市長）、清水省吾氏（ふくい路面電車とまちづくりの会事務局長）との情報交換

○富山市内、福井市内のLRT実地検証

◆盛岡のまちづくりと都市交通・LRTを考える公開討論会  
・・・参加者130名

・開催日・・・令和4年2月6日(日)

・開催場所・・・盛岡劇場メインホール

・具体的内容

○基調講演 森雅志氏（前富山市長）

○ディスカッション

コーディネーター：戸館弘幸顧問

アドバイザー：森雅志氏（前富山市長）

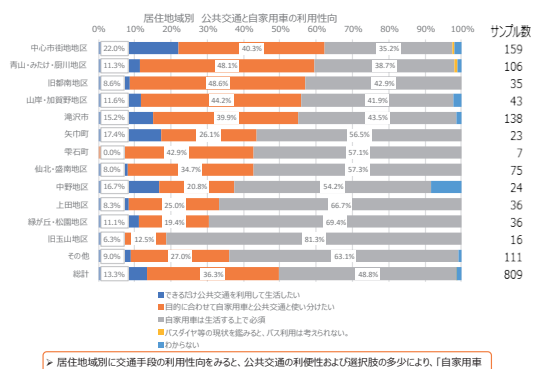
パネリスト：高濱康亘氏（盛岡市都市整備部長）  
 星憲治氏  
 （盛岡商工会議所交通運輸部会、三八五通運(株)代取）  
 丸山ちはや氏（盛岡大学短期大学部幼児教育科助教）

### 3 これまで得られた研究の成果

令和3年度は、特に「公共交通に関する意識調査」の結果を重視しつつ、以下のような結論を導き出すことができた。

- ▶人が交通手段を選択する場合には、目的地へのアクセスのしやすさを重要視している一方、他に選択肢がないとして消去法的に交通手段を選択する、という面も窺える。
- ▶この結果、自家用車に頼らざるを得ない層、定時性に不満がありながらもバスしか選択肢がないとしている層、本数が少ないという点に不満をもちながらも、電車の時間に合わせて生活のリズムを構築している層なども多くみられた。
- ▶一方、都市機能の充実という観点では、自家用車のみならず、電車やバスも高い自由度をもって利用できる環境にあるかどうか、という点が不可欠である。すなわち、主として公共交通を利用する層、および公共交通と自家用車を状況に応じて自由に使い分けできる層ないし地域をどのように広げていくか、という点が重要視される。
- ▶盛岡市および周辺地域が、将来にわたって持続可能な都市機能を維持発展されるためには、公共交通の選択肢をいかに増やしていくか、選択肢を多く有する地域をいかに広げていくか、という点を追求していく必要がある。

図表1:交通手段の状況(利用性向)



▶居住地域別に交通手段の利用性向をみると、公共交通の利便性および選択肢の多少により、「自家用車派」の割合が左右される、という状況が窺える。

### 4 今後の具体的な展開

令和4年度における岩手県立大学地域協働研究として、令和3年度の本研究の「続編」としての研究が採択された。これを受け、まずはこの4年度に、以下の研究を進める。

#### ◆公共交通実態調査「実査編」

令和3年度は「意識編」が完了。令和4年度は、実態調査のうち「実査編」に取り組む。

#### ◆先進地視察

LRT先進地域については、宇都宮市を訪問し、現状と課題、住民の反応、費用対効果をヒアリングするとともに、利便性を体感し画像や映像を撮影。その結果をルート想定

等にフィードバックする。

#### ◆公開フォーラム

まちなかセッションおよび公開討論会を予定。各種調査結果、研究結果を報告するとともに、LRT先進地域の行政・交通事業者・まちづくり団体・学識者等を招き、広く市民への意識付けを行う。

#### ◆LRT導入における費用対効果の検証

令和4年度の重点取組課題とする。想定される障害は、建設費や費用対効果の数値や情報が部外秘の可能性があること。一市民団体では取得できない可能性があることから盛岡市の協力が不可欠であり、協力しながら進めたい。

#### ◆地域への普及啓発

こうした実践の中で、もりおか交通まちづくりLRTフォーラムをはじめ、まちづくりに積極関与するメンバー・体制が拡充していくことが予想される。そのことで、研究終了後も、本研究での成果や経験・体制を基盤として今後も持続的に都市運営・改善に関わっていく体制とムーブメントを形成していこうとするのが本研究の目的の一つでもある。

### 5 その他(参考文献・謝辞等)

令和3年度の研究のメインテーマは、公共交通に関する意識調査であった。これについて、アンケート調査手法として、Google フォームを活用して行った。この結果、以下のとおり大きな効果を楽しむことができた。

#### ◆サンプル数

本件調査のサンプル数が809サンプルと、通常我々が関与してきたアンケート調査に比し、相当に多くのサンプルを収集することができた。

#### ◆スプレッドシート

自動的にスプレッドシートにデータがプロットされることにより、その後の分析も簡便に行うことができた。

#### ◆共起ネットワーク

共起ネットワークによるテキストマイニングの活用により、多数意見、関連意見の抽出を簡便に行うことができた。

#### ◆具体的な実態把握

公共交通の実態について、感覚的に捉えていたものが、一層具体的に実態に切り込むことができ、今度の公共交通にとって必要なファクターを抽出することができた。

本研究の実施において、公共交通の意識調査においては、総合政策学部地域環境調査実習B（宇佐美クラス）受講生に協力をいただき、もりおか交通まちづくりLRTフォーラムとの協業により、今回の成果を打ち出すことができた。ここに記して、感謝申し上げる。